

マイケルJローズ ニュースレター 2006年 春号



光の皆さん、こんにちは！

緑も空も青々として気持ちのいい日々です。

この2月は父が新しい旅へと向かいました。新たなる誕生です。

死は、大きな変化であり目覚めの瞬間になりうることを知識としては知っていましたが、今回私が気づいたことは、「死」は死に逝く人にとって大きな学びの機会であると同時に、見送る私たちにとっても豊かな経験、大きな学びの機会になることでした。これまで何人かの親しい人の死を経験していますが、今回初めて丸ごと死に向き合ったように思います。父の死の瞬間、旅立ちの瞬間にも居合わせることができました。そのとき、涙は出しましたが、強く感じていたことは愛と感謝と平安でした。素晴らしい経験でした。

父が与えてくれた経験と学びの機会に感謝します。

大きな学び、それはやはりこの瞬間、瞬間を大切に生きること。愛を生きることです。愛を表すことです。急に旅立ったので特に強く感じさせてもらいました。

愛を流せば流すほどに、心は豊かに大きく育まれます。私のハートが喜びます。

制限すれば苦しくなります。何かをつかむと苦しくなります。

トリーニーがよく言うようにすべて let go, let go, 手放し、手放しです。

そして、後のことはセルフを信頼して生命の流れにおまかせです。

そうするとハートがとっても喜びます。

そうして、この瞬間を大切にするとトリーニーがマイセイで書いているような不思議の瞬間を経験する機会が多くなります。葉が小さく揺れるのを見ているときに、食器洗いをしているときに、何気ない瞬間に、とっても心が豊かになることが増えていくのです。

自然も新しい生命の息吹であふれています。春の風、春の香りを楽しんでいます。

皆さんも新しくて素晴らしい日々をお過ごしください♪

たくさん愛を込めて やすみ

マイケルのお話 by マイケル



最近、影を持つようになりました。その影は陽が照っていようと日陰であろうと、どこへ行ってもついてきます。その影の名前はゼンです。正確に言うとゼン・マイケルです。そして、私はゼンの中にマイケルを見ることができます。冗談ではなく、私の中にいる子供はゼンの中にもいます。その子供は、人生に強い興味をもち、まったく天真爛漫です。今のところゼンが私の一番の先生です。彼は2歳にもなっていませんが、生命の本質への理解は驚くべきものがあります。彼の叡智が、いつも叡智があるとは限らない大人と通じ合うのに苦労している様子を見ると、生命が気づきの足りない大人と通じ合えないで苦労している様が見えてきます。

カトリーナとラッセルが「意識的な育児」で、ゼンを育てているので、トリーニーと私も同じように意識して関わってい

ます。大きなレッスンです。私を感嘆させることは、ゼンに「罰」という考えがないことです。彼の現実には存在しません！とっても恵まれた生き方、学び方、成長の仕方です。彼は、周りの世界に対する好奇心で満ち溢れています。エネルギーでずっと動いています。私たちの庭が大好きで、その庭でトリーニーと私と一緒に過ごす時間が大好きなのです。彼は私たちをママとダッドと呼び、彼の両親をマミーとダディと呼んでいます。とってもユニークな子供で、ゼンのことならいくらでも書けそうですが、それはカトリーナにまかせることにします。

最近、私は自分が“もしかして、おかしい？”と思うことがありました。69歳の誕生日を迎えたのですが、私はまだ若者です。最近、ポリエチレンの水槽をもう一つ設置する予定で、水槽用の場所を準備しているところです。ぎっしり詰まった固い地面をつるはしとシャベルを使って30時間ほど働かなければなりません。掘削機を使うと1時間以内に楽にできたはずなのに、です。それに比べて手作業はとても重労働です。それなのに、3時間の労働を終えたとき、私にはもう次の作業が楽しみなのです。そんなときです。私はおかしいのかな・と自問するのは、固い下層土につるはしを打ち下ろし、シャベルでその土をすくい手押し車に入れ、押していき、手押し車を傾けて土を出す。疲れきるまで熱心に繰り返します。この作業を楽しめる人がいるでしょうか。どうして楽しむことができるのか自問したとき、自分の答えに驚きました。とてもシンプルな答えだったからです。私にできるから！私は丈夫で健康だから、この作業を楽しめるのです。

池では混乱が起きていました。この夏、私の池にいる肉食の魚、サラトガ(オーストラリアに生息している魚です)を見かけることはあまりありませんでした。彼は内気です。しかし、内気かどうかは別にして彼は確実に成長し、突然、子羊の中にいる狼と同じ状態になりました。

彼は同じ池に棲む金魚を食べ始めたのです。そのため彼を池から追い出さなければなりません。ラッセルの提案で、近くにある水族館に電話しました。そこのスタッフは展示用の大きな水槽に入れましょと喜んでくれました。

金曜日の夕方(私の誕生日です！)私は池の側に立ってサラトガの意識に同調しました。そして、サラトガに彼が現在置かれている状況を伝えて、彼の新しい場所は彼を大切にしてくれるし、金魚もまた以前の平安な暮らしに戻ることができる伝えました。それから、翌日簡単に捕まってくれるようお願いしました。

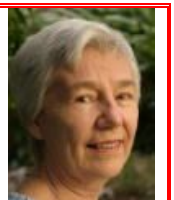
翌日のことです。私は、池をきれいにして、仕事がかどるように鉢植えの睡蓮や他の植物を池から出しました。ラッセルと私は池に入り、私たちの間に円形の捕獲用ネットを抱えて歩き始めました。砂利が敷かれたところで育っている水生植物のすぐ近くまで歩いてきたときです。サラトガが水草の中から飛び出し、まっすぐにネットの中に入ってくれました。1時間後には水族館に着いてスタッフから素晴らしいと褒められていました。彼の体長はおおよそ75cmあり、その体は銀色にきらめいていました。

スタッフが「会いたいときはいつでも自由に会いに来てください、無料にしますから」と、言ってくれました。

サラトガの冒険談でした！もうすぐ会えることを楽しみにしています。

愛と光の中で マイケル

マイセイ by トリーニー



最近、不思議の瞬間を経験したことがありますか？私は、先ほど早朝の“心臓血管トレーニング”から戻ったばかりです。言い換えるとキエールマウンテンの坂を下り上ってくるトレーニングです。私はこの早朝トレーニングに少しばかり中毒になっているようです。何故かと言うと、たとえば、今朝、太陽が木々の間から昇るのを見ていたとき、とても不思議な瞬間を経験しました。空高くに雲がありました。早朝の太陽が雲をとらえ、赤く染めたのです。そのとき、その赤の色が変化する様はとても美しいものでした。ほんのしばらくの間のできごとでした。それから雲は元に戻り、木々がこの素晴らしい光景を遮りました。

それで、私は誰もが時々経験する不思議の瞬間について考えて見ました。そういった出来事は束の間のことですが、とてもとても特別です。私には、実はそういった瞬間がたくさんあります。バナナを食べるときのゼンの顔は文字通り輝きます。その顔を見るだけで私のハートは溶けてしまいます。(彼はアレルギーのせいで、時々しかバナナを食べられません)ゼンが何か新しいことを経験しているときに彼と一緒にいると、その不思議の瞬間を彼とともに経験することができます。彼が新しい言葉を繰り返すのを聞くと、その成果に本当に喜びあふれるゼンの笑顔を見るととき…こういったすべてが私にとっては不思議の瞬間です。

最近私は車で孫娘のジャシタを学校へ迎えに行き、私の家まで連れてきました。彼女は14歳です。彼女のお母さんのキャサリンが病気だったので、夕方の楽団練習にも連れて行ってあげました。ジャシタはサンシャインコーストにあるシンフォニーオーケストラでバイオリンを弾いています。私たちが練習場に到着したとき、楽団のメンバーの一人が、練習が中止になったことを伝えてくれました。ジャシタは実はホッとしていました。我が家に戻ってそのとき居合わせたゼンと遊んで満足でした。私の不思議の瞬間は車の中で彼女と特別な時間を過ごすことです。彼女のとても忙しいスケジュールの合間に彼女と共にいることです。車に座ってくつろぎおしゃべりします。私の孫たちと一緒に過ごす時間はいつも特別な時間であることがわかります。これまでも、彼らをどこかに連れて行きながら車の中で、もっとも心に触れる会話をしてきました。とても大切に特別な機会です。

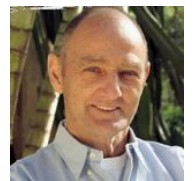
昨日の夕方のことです。私はマイケルにチョコではありませんがチョコ味でコーティングされたバナナをあげた時のことです。それは、私たち二人ともお気に入りのちょっとしたおやつです。マイケルが「一番大きいのが欲しい」と言ったので、「あなたに、いつも一番大きいのをあげているのよ」と答えました。彼は笑って、彼がそのおやつを皆に配るとき、いつも一番大きいのを私にあげていると言いました。私たちの結婚は、「お互いに与えあう」ことがずっと根っこにあるのです。

不思議の瞬間は、お金がいらぬというだけでなく、失うものが何もなく、囚われからも自由です。それが一番の特別な自由です。不思議の瞬間はあらかじめ計画されたものではなく、いつも瞬間の経験です。

難しいこと、それは不思議の瞬間を経験するために、いつも今、この瞬間にいななければならないことです。十分に！あなたも、今日、不思議の瞬間を何度か経験できますように！

たくさん愛を込めて トリーニー

質問と 洞察 by マイケル



質問：目覚めた人は、私たちがコントロールしていないといいます。しかし、マイケルは自分で自分の現実を作っている、つまり逆のことを教えています。このことを明らかにしてくれませんか？

洞察：要約すると、あなたは、自分で自分の現実を作っている、このことを本当に学ぶまで人生をコントロールしていません。大多数の人は自分の人生をコントロールできていません。どうしてでしょう。基本的に、人類の意識において二つの流れがあります。一つの意識の流れは、物質的な富と成功に、具体的で理解できるものへと向かっています。もう一つの意識の流れは、魂の鼓舞、スピリチュアルな成長、不確かで未知のものへと向かっています。

前者の流れは幻想に基づき、後者の流れは真理に基づいています。

前者の流れでは、人々は人生をコントロールしていませんし、すぐにそうできるようになりそうもありません。後者の流れの人も人生をコントロールしていません。しかし、コントロールが可能であることを学びつつあります。「私たちは

自分の現実を自分で作っている」と私は書きます。この言葉を読んで、あなたは知的に理解することができます。知的理解は、あなたを前者の流れの中に連れて行きます。

「私たちは自分の現実を自分で作っている」あなたはこの言葉を読んで感じてみます。知的にはその言葉を放棄しますが、その言葉の意味を十分理解していないことを知っているハートでその言葉に触れることができます。そうするとあなたは後者の流れの中にいます。分かりますか？目覚めていて、分からないはずはありませんが、目覚めるまでは、おそらく分からないでしょう。

それにしても、コントロールは「人生のガイド」にはなりません。

私はアイデンティティとして私の人生をコントロールしてはしません。それは、セルフ(Self)におまかせしています。これをしなさいとかあれをしなさいとか、セルフは決して言いません。

セルフはあらゆる瞬間に人生に対するたくさんの機会をあなたに差し出します。あらゆる瞬間にたくさんの選択があなたにはあります。コントロールとは自分(self)が瞬間、瞬間にもっとも適切な選択をすることです。

一般的に自分(self)の選択が、セルフを尊重しているなら、人生はとても高揚するものになります。しかし、どんな選択も、正しくも、間違ってもいません。ただ結果があるのみです。

振り子は揺れます。あなたは振り子をコントロールはしませんが、その揺れる振り子の現実を作っているのはあなたであることを学ぶことができます。

質問:マイケルは「愛は感情ではなく、聖なる創造の原理である」と言います。そうであるなり、私たちが誰かに「愛しています」という時、実際は相手に対して何を意味し、表現し、伝えているのですか。

洞察:私たちは「愛しています」と言いますが、表現しているその意味は「気持ちの上であなたに愛着があります」です。まさかとか、ショックを受けてひるむ人たちは、正直にあなたの関係を調べて、その真実を見てください。愛は絆ですが、束縛しません。愛着は縛り付ける束縛です。

私が書いていることの中に批判があると受け取らないでください。私たちは取り組まねばならないことに対してできる最善を尽くしています。しかし、真の愛を見出すには、条件付けされた潜在意識のプログラムが障害になっています。人間は本当に他人を愛することができるのでしょうか？断定的に肯定できます。しかし・・・いつも、しかしがあります。

まず何よりも、本当に自分自身を愛することができなければなりません。あなたが抱えるいわゆる「欠点」のリストをあなた以上に知っている人は誰もいません。たくさんの方が、その欠点のリストを減らそうとしてセミナーに参加します。そこで、より良い人になることを、もっと愛のある、愛すべき人になることを願い、十分ではないと思っている資質をもっと向上させようと、強く願います。

いずれも愛とは何ら関係がありません。愛は自分への正邪、善悪の判断をしません。愛はあなたを全面的に受け入れます。あなたに制限を課したり、縛り付けたりしません。愛は誰の中にもあって表現されている創造のパワーです。私たちは創造を表現しているパワーなのです。

しかし、自分をアイデンティティであると見なし、自分は混乱して分離した自分(self)であると信じることで、私たちの真実を分かりにくくしています。

あなたがあなたである愛を見出したとき、あなたは自分(self)をセルフ(Self)・本当のあなたによって絶えず大きく広げることになります。私が言うところの「セルフに恋に落ちる」状態です。

このとき、あなたは他人を本当に愛することができます。なぜなら、あなたは意識の中で、あなた・セルフへの愛を生み出し、大切に育てているからです。あなたはもう囚われていません。

恐れのない執着を考えることができますか？よく調べてみるのです。恐れは執着です。恐れが感情とつながるとき、あなたはとても強い執着を抱えることになります。私たちは愛を感情的にすることができるし、します。それは問題では

ありません。先ほど書いたように私たちは今現在できる最善を尽くしているのですから。私たちは「あなたを愛している」と言える誰かを見出すことに熱心です。しかし、「私は自分を愛し受け入れている。だからあなたを心から愛することができる」と言えるようその熱い思いを向けるべきです。

本当に自分を、セルフを愛し、他人を愛することができる時、私たちは創造の聖なる原理を表しているのです。
大いなる愛は自由です。
決して判断しようとしません。
囚われることはありません。
愛する人を所有したり妨げたりしません。
感情的な執着には、その気持ちが続けられるためのこうあるべきといった長いリストがあります。
私たちはこれを関係と呼ぶのです！

セルフ(Self)について・・・

セルフは魂の絶えざる表現です。セルフは生まれることも死ぬこともありません。セルフは分離を知りません。生命を全体として、一つとして見ているからです。セルフは本当のあなたである永遠の存在です。スピリチュアルな覚醒とはアイデンティティセルフ(Identity self)が死んで、本当のあなたであるセルフに目覚め、その高い意識、セルフを自覚している状態、セルフそのものになることです。アイデンティティの死が、肉体の死を意味するものではありません。

一方、アイデンティティセルフは生まれたときに始まります。自分であること、アイデンティティを確立するために名前が与えられ、人生を通して個性と人格を育てます。アイデンティティセルフは生命を分離と競争として見ます。好き、嫌い、怒り、非難などの感情を持つようになります。

(訳者注:上記は「真理を生きる2」からの抜粋です。洞察を読むにあたって分かりやすくなると思い掲載しました)

地球での人生の大きな目的は、無条件の愛がもつ創造の力と結びついて、その愛を放出することです。

マイケルJ. ローズ

師であるゼン by カトリーナ・ローズ



驚いたことに私は弟子であり生徒であり帰依者になっています。私には先生が、師がいるのです。私を酷使用するグルです！朝の5時30分には、時にはもっと早く目覚めて、「起きろ」と命令口調で言います。彼を決して責めたり、咎めたり、厳しい口調で話しかけたりしないことを要求します。いつも、全身で彼の話の間くように、いつも辛抱強くいるように(彼は決してそんなことはないのに)、物事を私にわかりやすく話するように、求めます。(彼はというと、最近まで私に話しかけることは決してなかったのに、です)彼に対するあらゆる状況で、私が愛を選択するよう要求します。つまり、考えることも話すことも行動することもすべてにおいて愛があることを、です。

彼は、私が窮地から逃れるようなことはさせません。このグルはとても優れた教師で彼は自分の好きなように振舞うことができます。そして、私はできないのです。私はいつも最高の振る舞いをしなければなりません。一日24時間中です。(簡単なことではありません！)

このグルはいつも瞬間にいて、私が彼のようになれるよう最善を尽くしています。彼は、私が意識の気づきにおいてこれまで決して得ることのなかったレベルに達することを、少なくとも、成長するよう求めています。この分では、私は変容するかもしれません！

そしていたずらな彼は、私に奉仕させるだけでなく、夫の両親も巻き込んでいます。彼は祖父母をダッド、ママと呼

び、よく「お家へ帰ろう(祖父母の家です!）」と言います。そして、彼らが私と同様に彼の存在にいつも意識していることを求めています。

一番ひどいのは、このグルは彼の必要なことを私の必要よりも優先させることを要求するのです。「エヘン! 良き帰依者は謙虚さが必要である」と言われます。私は謙虚ではないし、奉仕するタイプでもありません。私はおひつじ座なのです。控えめでよく奉仕する牡羊座は、占星術ではありえません。私はいつも先頭をきって歩くタイプなのです。

このグルはかなり私にはショックです。私が以前グルを求めたとき(あまりはつきり覚えていませんが)、グルとは長くて白い髭を生やしたおそらくインドの老人で、足を楽々と耳の後ろにつけることができるだろうと思っていました。確かに私のグルも同じことができますし、大抵のヨガ行者より柔らかく柔軟に見えます。

もうお分かりかと思いますが、彼はもうすぐ2歳で、背丈は1メートル弱です。名前はゼンで、私たちの息子です。これからニュースレターで、ゼンのようなグルとともに生きることで学んだことをお知らせしたいと思います。

まもなく控えめになる、少し圧倒されている帰依者より カトリーナ・ローズ

意識のコラム by マイケル



オーストラリアで開催されている2006年のコモンウェルス・ゲームをここ数日間、テレビで見っていました。(訳注:コモンウェルスは英国の旧植民地国からなる加盟・脱退自由な英連邦領で、現在約70ヶ国加盟しています。コモンウェルス・ゲームは加盟国のオリンピックと言えます)コモンウェルス・・興味深い言葉です! その意味は?すべてのものに共有される社会一般の富です。

しかし、このゲームに参加している国の中にはとても貧しくスポーツ用具一式すら買えない国があります。(オーストラリアの人たちがプレゼントしました)辞書を調べてみるとコモンウェルスとは人々が主権を持つ州・国です。それが民主主義と思います! ザ・コモンウェルスとは過去のいつかに英国に支配された主権国家から成る連合体なのです。英国は世界中へ進出していたのです。

試合を見ていて気づいたのですが、ゲームの参加者は、世界中のスポーツ有能な人たちのほんの一部に過ぎません。競技に参加できる人が決まるまでに、その途中でたくさんの人が敗退していったに違いありません。そのため「私は不十分」という潜在意識を持つようになった人がたくさんいたはずで、オリンピックやコモンウェルスのような大きなスポーツイベントで、何万という若者たちの間に勝者と敗者、成功と失敗とう信念が深く刷り込まれるようになるのです。

コモンウェルスの競技はコモン(一般の、皆の)ではなくアンコモン(まれな)なウェルス(富)の競技です。ゲームは確かに「皆の富」ではありません。4年に1度開催され、スポンサーにサポートを受けている数少ないエリートの「勝者」を除けば、そこに富はありません。あまり露骨すぎて、ゲームの営利化に冷笑的になる人もいます。しかし、ゲームは続けられ、少数の若者は富と名声を得ます・・・しばらくの間ですが。

確かに私は、いわゆる「勝者」のもつ集中力、献身、忍耐に対して、賞賛と尊敬の念をいただいています。彼らがメダルに値し、努力して勝ち取ったことにも何ら疑問はありません。

少数のエリートたちには動機と褒賞があります。彼らはスポーツから広告界やビジネス界へも進出できるからです。動機がキーワードになります。ニンジンのようにあなたの前に経済的な保障をぶら下げられるとき、それは動機となります。

もし、経済的保障が動機にならなくても、次の大きな動機があります。それは、エゴ・自我です。おそらくもっともパワフルな動機となります。殆どの方が、名声と富によってより良い人に、成功者になれると信じています。だから、人々はエゴの要求に駆り立てられるのです。それが良いとか悪いとか、正しいとか間違っていると言っているのでは決して

ありません。

しかし、それは人生の幻想の一部に過ぎません。

コモンウェルスの競技はスポーツであり、スポーツとは競争です。競争とは何でしょう？ここで、勝者と敗者、成功と失敗の幻想について話しましょう。一般社会において競争は誰が1番かを見出すことです。そこにはビリも必ずいます。ビリがいて1番がいます。もしあなたが、遺伝子的に新陳代謝作用が早くて力強い体に恵まれている走者なら、誰よりも早く走ることができます。だからどうしたのでしょうか？だからといってあなたが人より優れていることにはなりません。ただ早く走れる人であり、あなたがスポーツ界から引退すれば人々はやがて忘れるでしょう。

それでも、あなたは練習し、集中し、献身し、忍耐強くなろうとします。さもなければ、競争相手の誰かがあなたを打ち負かすから、です。チャンピオンになったあなたには一生懸命手に入れた褒賞があります。しかし、競争で培った消えない信念はあなたの中に残ります。あなたは、競争する人へと形成されたのです。

このことをメタフィジカルな見解から見てみましょう。

すべての生命は一つの全体的な表現です。物質的な幻想に関わらず、自然の何ものも他の生物と競うことはしません。生命は生命と張り合いません。自然とは表現すべき物質的な形を引き寄せている意識の絶えることのないプロセスです。そして、物質的な形は絶えず意識の中へと再統合しています。

私たちはこれを進化の過程における誕生と死と呼んでいます。そして、幻想と分離の視点から、意識の絶えざるプロセスを競争と見なします。

もしあなたが、競争する人なら、あなたは人生を競争であると見なします。

もしあなたが、スピリチュアルに気づいている人なら生命を完全に包括的なものと見なします。

あなたが何かに対し競うことはできます。他の競技者と、時間と、記録と、自分と、そして・・・人生と競う。いわゆる「勝者」は自分の成功にとっても感激してオーストラリア人がよく言うように自分は「勝者であり笑うもの」とであると確信しています。

真理においてセルフの他には何もないので人生で勝つも負けるもありません。スポーツの世界ではおそらくいわゆる「敗者」も「勝者」と同じくらい一生懸命練習してきたことでしょう。しかし、「敗者」は単にスポーツ向きの遺伝子に恵まれていないだけなのかもしれません。

競争はすばらしい逆説です。本当の現実ではありませんが、私たちをこの地球から星まで物理的に到達しようとする力はこの競争力です。競争はとても人間的です。注意と敬意をもって取り入れられる競争には大きな可能性があります。私たちのエネルギーへの励ましとして競争を使うことには大きな価値があります。

しかし、人生とは絶えざる競争であると感じることは、その価値をまったくなくしてしまうこととなります。すべては一つです。私たちは全体的に成長するようデザインされています。競争とは幻想や分離の考え、それから誰かが得ると誰かが失うという考えが作り出したものです。成功と失敗を信じている限り、スピリチュアルに目覚めることはありません。

競争の一般的な利点は私たちの可能性を示すことです。マイナス面は勝者と敗者を作り出すことです。いわゆる「一度きりの人生」しかないなら、勝者と敗者は現実です。しかし、生命はそのようなものではありません。生命とは終わりなく継続する意識のことです。あなたと私は終わりなく続くセルフなのです。いわゆるいくつもの人生、そのすべての上に立った視点からみると、成功と失敗、勝者と敗者は、幻想として示されます。あなたが富の幻想を追い求めるよりも真理に向かう献身的な人であるなら、そのことが分かるでしょう。

コモンウェルスのスピリチュアルなゲームを想像してみましょう。あなたは、自己実現を求めて数百回の人生の後、覚醒したばかりです。満員の群集の前で突然、追い求めるものは何もないことに気づきます。他のスピリチュアルな探求者と一緒にスタートの合図を待っているが、それが幻想であることがわかります。ここにはスピリチュアルな探求を始めて数年しか経っていない人、いくつもの人生を追い求めてきた人もいます。あなたは競う代わりに、座って真理に明け渡します。あなたは幻想を打ち破ります。スピリチュアルな選手はすべて一つであるセルフの側面であり、それぞれが、果てしなく持ち続けてきた競争を表現しているに過ぎないことが分かり、あなたは手放します。あなたは勝つことも負けることもできません、あなたは生命です。あなたは肉体を超えたメタフィジカルな存在、多次元の存在、光の存在で

す。あなたはすべてと一つです。肉体は分離していますが、スピリチュアルには一つです。

競技場全体がセルフ・本当のあなたの光で明るくなることを想像してください。すべてのスピリチュアルな探求者はあなたが出合った深遠な真理を感じて、あなたのところへ駆け寄ります。彼らはあなたを肩に乗せ、トラックを走ります。群集の歓声があなたに注がれます。

あなたが住んでいる町から一番近い都市では紙吹雪の舞うパレードが待ち受けています。大衆からの愛と崇敬、州の長官たちからの賛辞が待っています。スポンサーは、自分たちがより正直に人々と取引ができるからとあなたに群がります。あなたが真理について話してさえくれたら、莫大な富を提供しましょうと。あなたの目覚めた意識からくるスピリチュアルな洞察に元気づけられている人々を見て、メディアはあなたの偉大な知恵を求めます。

想像できますか？

できないからといって、気にすることはありません。あなたが幻想を去るとき、あなたは一人です。すべてとつながるというのに、今まで経験したことがないくらい一人です。孤独です。なんという逆説でしょう。紙吹雪が舞うことも、パレードも、賛辞もありません。たとえあなたが人類にはとてもまれな意識状態を達成したとしても、です。実際、誰からも知られることはありません。

あなたはただ幻想を超えたところに足を踏み出したのです。

真理は簡単に幻想を見ることができますが、幻想は真理を見ることができません。

これは人の生命について、です。幻想の影から出て、真理の光の中へ入りましょう。これがすべての人間の魂の中に埋められ忘れられたままになっているたぐいまれな富、豊かさです。

個々に幻想のゲームが終わり、やがてセルフの真理が私たち皆の富になることでしょ。

愛と光の中で マイケル

運命の妥当性 by マイケル



運命の妥当性と書きましたが、同様に、運命がまったく妥当ではありえないとも書けます。何よりも運命の妥当性、言い換えれば運命があるかないかは、あなたが、幻想の世界か真理の世界、どちらに住んでいるかによって違います。

まず、運命が幻想の世界とどのように適合しているかを見てみましょう。幻想の世界は人生があてにならないこと、すべてが見えているようなものとは限らないことを意味します。偶然の一致は好機と手を取り合い、良くない出来事は不運と手をつなぎます。これを読んでいるたくさんの方が、そうだと思うかもしれませんが、それが、現実だと…。私は同意しなければなりません。もし、これがあなたの住んでいる世界であるなら、です。幻想の世界では、私たちは人生の気まぐれに従って生きています。運命のいたずらとしても知られています。幻想の世界は競争の世界であり、苦勞と困難がある世界です。とくに、あなたがこういったことを信じているなら、その通りです。

幻想の世界では、自分が自身の現実を作っているという認識はありません。もし、好きでないことが起きたらそれは不運であり、もし自分に有益なことが起きたら幸運と考えられます。人生の長期にわたる出来事が有利であるなら、幸運と見なされ、もしその出来事が不快なものになり、すべてが、うまくいかないとき、それもまた運命と見なされます。私たちの手に負えないと思われる出来事のすべては、運命と考えます。つまり、人生に絶えず流れている偉大な真理を避けるとても効果的な方法といえます。

幻想の世界では私たちの焦点は、人間に起きる、生態に起きる災害や災難へ、貧困へ、不正へ、暴力へと向かいま

す。幻想は、すべての生命は分離していることを示します。それが競争原理の基になっていることを示し、自然がその完全な例であることを示します。幻想の世界で、私たちは勝敗を、目標を定めることを、成功と失敗を信じます。すべてのストレスも、重圧も幻想の世界からきます。

しかし、この冷淡な幻想の世界への人間の執着は強くなっていくだけです。

人生を違う視点から見てみましょう。生命を映画として見てみるのです。映画の一コマコマが一生です。それは、始まりも終わりもひとつなぎに継ぎ合わさった長い、長い映画です。言い換えると、この生命の映画は始まりも終わりもありません。

これはあなたの生命の映画であり、すべての瞬間、すべての詳細はあなたが作り出しているのです。とてもシンプルなことです。

それでは、少し複雑な側面を見てみましょう。この生命の映画は同時に上映されている二つの映画でできており、お互いがつながっています。一つは幻想の映画であり、もう一つは真理の映画です。

多数の総意による現実に住んでいる人には、一つの映画しかなく、それはコントロールできないものであると信じています。あなたにできる事と言えば最善を尽くし、それが十分であることを願うだけです。

より偉大な現実に住んでいる人は、二つの映画が織り交ざっていることを知っています。なぜなら、彼らは幻想を打ち壊したので、自分の意志で自分の人生を監督できることに気づいているのです。

落とし穴はたくさんあります。監督として、意志の力は素晴らしい働きをしますが、欲望は下手な代役となります。欲望はあなたを幻想の映画に押しとどめます。たとえ幻想が、あなたは偉大な現実を経験していると示唆しているときでさえも、です。幻想の世界に住む人は、「こうなることになっていた」「私の運命を否定することはできない」「宇宙が助けてくれるから」と信じています。

彼らはその概念を頭でとらえて、そうなるかもしれないという可能性さえ感じていますが、まだ幻想の中に捕らわれています。幻想は、幻想の世界ではパワフルですが、真理の世界ではパワーを持ちません。幻想はあなたを殺せませんが、真理において死はありません。幻想はあなたを恐れでいっぱいにすることができますが、すべての恐れは幻想です。幻想は、不安やストレスであなたを苦しめますが、不安もストレスも幻想という織り機が紡いだ欺瞞という影です。

真理はすべてのパワーを握っています。にもかかわらず、このパワーは真理によって頑なに握られているわけではありません。真理は幻想に屈するでしょう、なぜなら幻想を否定することは、幻想に力を与えることになるからです。

真理において、あなたも私も不滅の大いなる存在です。無限が私たちの場です。地球の人生は私たちの選択によるものです。私たちは自分の生命という映画の監督です。人生は私たちの指示に従って流れます。

真理において、私たちの生命の映画は無限というリズム合わせて流れています。そして直線の時間は創造という生命のレッスンを学ぶにはとても効果的で有効な手段に過ぎないことを知っています。無論、幻想の中で、私たちを縛るのは直線の時間です。しかし、それもまた私たちの選択であり、あるいは選択の欠如です。

真理において、すべての執着は幻想からきています。愛は真理が表現されたものです。愛は幻想の偽りを切り刻むことができるパワーです。愛は執着ではありません。

真理は、アイデンティティセルフが孤立した人間の単位ではないことを教えます。

真理は、すべての生命が一つであることを私たちに教えます。この惑星のすべての生命は、一つの意識の広大で多様な表現であることを教えます。その意識は、よく神として話されます。

真理は、アイデンティティの自己が死によって幻想を取り除くことが可能であることを教えます。アイデンティティの偽りのパワーがなくなると、そこにはセルフしかありません。

真理は、セルフの他には何も無いことを教えます。真理の中で幻想は色あせ、幻想に対する感謝しか残りません。なぜなら、幻想は私たちが意識において成長するための手助けとなる夢だからです。

愛と光の中で マイケル